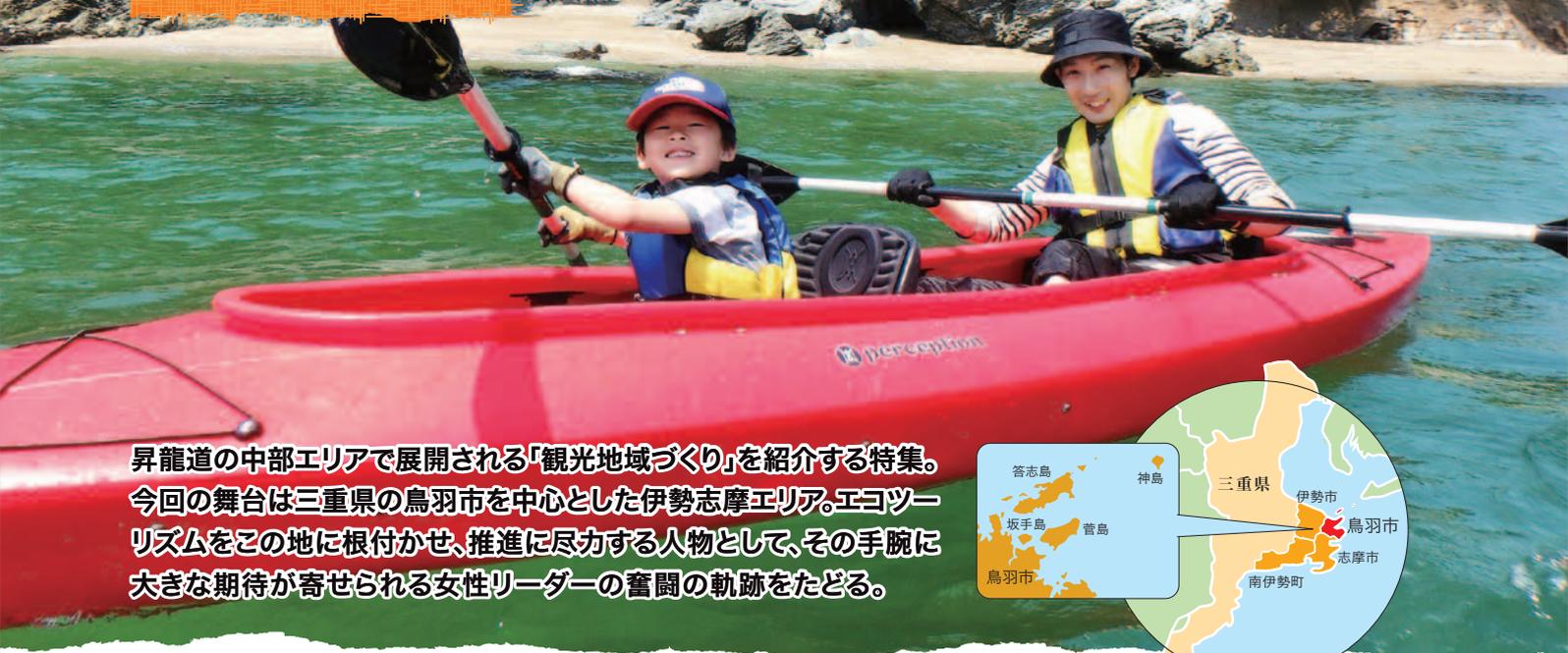


がんばる
Chubu

観光地域づくり編

海の恵みを生かしたエコツアーで 人々の幸せを成す“成幸”を目指す

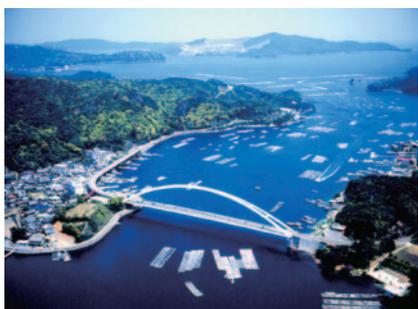


昇龍道の中部エリアで展開される「観光地域づくり」を紹介する特集。今回の舞台は三重県の鳥羽市を中心とした伊勢志摩エリア。エコツアーリズムをこの地に根付かせ、推進に尽力する人物として、その手腕に大きな期待が寄せられる女性リーダーの奮闘の軌跡をたどる。



地元住民との協力体制を構築し、鳥羽に新たな観光スタイルを確立

エコツアーリズムを推進する女性リーダー



伊勢志摩国立公園は、指定区域の96%が民有地という自然と暮らしが調和した国立公園(鳥羽市上空から撮影)

三重県東端部の志摩半島北側に位置する鳥羽市は、神島、^{かみしま}とうしじま ^{すがしま} すがしま ^{さかてじま} さかてじま 答志島、菅島、坂手島の4つの有人離島と多くの無人島、半島部から構成されている。1946年には伊勢志摩国立公園に指定され、1950年代にはミキモト真珠島や鳥羽水族館など大型観光施設が次々とオープン。また、伊勢湾の栄養豊富な水と黒潮が会う豊かな漁場を有しており、観光と漁業を主産業として発展してきた。

しかし、観光入込客数は、1991年の約700万人をピークにバブル経済崩壊とともに減少傾向が続き、2018年には約430万人となっている。一方、漁業も漁獲高の減少や後継者不足などから従事者の減少が問題視されている。

そのような現状の中で、豊かな自然や漁村文化、そこで暮らす人々の魅力を存分に楽しめるエコツアーリズムをこの地に根付かせ、新しい観光のかたちを確立した女性がいる。(有)オズ代表取締役の江崎貴久さんだ。江崎さんは、鳥羽市エコツアーリズム協議会会長、伊勢志摩国立公園エコツアーリズム推進協議会会長、環境省の中央環境審議会や国立公園満喫プロジェクトの委員なども務め、鳥羽をはじめ伊勢志摩のエコツアーリズム推進においてリーダー的な存在として活躍している。

老舗旅館の女将がガイドツアーをはじめ

江崎さんは、京都外国語大学を卒業し、東京で働きはじめて1年が経った23歳の時、明治から続く実家の旅館「海月」が倒産寸前との知らせを受け、再建するために鳥羽に戻り5代目女将になった。

観光業に携わるようになり感じたのが、釣りや海で遊ぶなど、江崎さんが描く鳥羽の一番の魅力が当時の観光には一切生かされていないことだった。「旅館に泊まり、魚を食べ、観光施設を訪れるだけ。それで観光客は

満足しているのだろうか」「海外のオプションツアーのように、ガイドがいて自然を楽しめるツアーが鳥羽にもあればいいのに」という思いが高まっていった。

ちょうどその頃、毎週集まっていたUターン仲間の同級生4人と、「集まりも飽きてきたし皆で何かやる？会社でもつくる？」という軽いノリから2000年にオズを設立。それぞれが好きなことをやろうというスタイルで、江崎さんは、2001年から「海島遊民くらぶかいとうゆうみん」の名でガイドツアーの企画・運営を開始した。



海島遊民くらぶのスタッフ。中央左が江崎さん(45)、2人の男性は鳥羽高校からのインターン生

地元住民との連携でエコツアーの体制を確立

最初は主に修学旅行生を相手に釣りや磯観察から手がけていったが、ツアーの魅力度を向上するために漁師をはじめ地元住民と連携し、エコツアーの体制を確立していった。現在は、年間約4,500人が参加しており、「無人島たんけんツアー」「お魚さんまい♪漁師さんと



多くのツアーは、地元食材と住民との会話を楽しみながらディープな鳥羽を覗き見できる

船釣りツアー」など漁師が同行するツアーの人気の高い。また、「鳥羽の台所つまみ食いウォーキング」「鳥羽自慢『一本釣りサワラ』！炙って焼いて、タタキ造り体験」など地元で愛される食材を堪能できるツアーも人気だ。

ツアーのほとんどは地域の協力を得て運営しているため、漁場を荒らさないためのルール、住民生活への配慮や住民と仲良くするためのルールを定めている。ツアー中は、ガイドが明るく住民に声をかけ、その会話

にツアー客を上手く引き込み、普通の旅では経験しがたい住民と触れ合える場をつくりだす。住民にとってもツアー客との会話を通じて地域の魅力を発信できるので喜ばれている。これらの努力により、海島遊民くらぶは地域との信頼関係を築き、それを保ち続けている。

コミュニケーション能力を育むため 小学生ガイドが誕生

海島遊民くらぶは、ツアー客に地域の魅力を伝える役割だけでなく、幅広い効果を生み出している。その1つが、地域貢献につながった菅島の小学生による「島っ子ガイド」の取り組みだ。

きっかけは、「島を訪れる子どもたちはよく挨拶してくれるけど、島の子たちが他所に行った時にちゃんと挨拶できるのだろうか」という、あるお婆さんからの一言だった。菅島では、知らない人と接する機会が極端に少なく、子どもたちのコミュニケーション能力不足が心配されていた。そこで子どもたちが島をガイドするイベントを行い喋る経験を積ませようと、総合学習の一環として2008年から島っ子ガイドがスタート。子どもたちが自らの視点で島の魅力を考え、調査し、ガイドシナリオをつくるので、毎回楽しい話題が提供されるとリピーターが続出するほど人気が高まっている。

島っ子ガイドの成果は、コミュニケーション能力向上のほかにも、積極的に手をあげる子、学力や知識が向上した子が増えたという。頑張る子どもに促されて大人たちも島のことを教えるうちに、島に誇りを抱くようになるなど、島全体に良い影響をもたらされている。また、島っ子ガイドの取り組みは、各地から多くの方が視察に訪れるほど注目されており、現在、鳥羽の神島、長崎のたくしま渡島、鹿児島島の徳之島、長野の戸隠にも広まり、小学生ガイドが誕生している。



現在は毎年11月に「島っ子ガイドフェスティバル」として開催されている

活動エリアを拡大し、エコツーリズムによる地域活性化に尽力

日本各地へ、世界へ、支援が広がる

2009年、海島遊民くらは、これまでの活動を高く評価され環境省の「第5回エコツーリズム大賞」を受賞。これにより、業界内にその名が知れ渡り、各地から講演会



研修中のインターン生。今年はベルギー、フランス、ドイツから来ている

やコンサルティングなどの依頼が多数舞い込むようになった。さらに、視察研修やインターンシップの受入れなど事業の幅も広がりを見せている。その知名度は海外においても高まり、外国人インターンシ

ップの受入れ、笹川平和財団を通じたパラオへの支援なども開始。パラオでは今年から、海島遊民くらはスタイルのツアーを全16州で行うことを政府が決定。これまで海外資本に頼っていた観光をパラオ人が行うという革新的なプロジェクトに協力している。



海島遊民くらはで「炙り」の技術を学ぶパラオ人研修生

鳥羽から伊勢志摩へと活躍のフィールドを拡大

「エコツーリズムを地域全体で進めていくためにも関係者が話し合いをする場が必要」という江崎さんの提案から、2010年「鳥羽市エコツーリズム協議会」が発足。観光や漁業などの産業関係者、行政の間にネットワークが生まれ、横のつながりが強化された。また、「鳥羽エコツーリズム推進全体構想」を策定したことで、環境省からガイドがお客様を送迎できる規制緩和を受け、二次交通が集客のネックになっていた問題が解消された。

エコツーリズムを推進していくための江崎さんの構想は、2016年の伊勢志摩国立公園指定70周年を機に、「インバウンドの拡大」を目標に、鳥羽市、伊勢市、志摩市、南伊勢町の広域連携へと発展していく。時を同じくして、環境省が日本の国立公園を世界水準のナショナルパークとしてブランド化するために「国立公園満喫プロジェクト」を始動。選定された8つの国立公園に伊勢志

摩も入ったことから、2018年に「伊勢志摩国立公園エコツーリズム推進協議会」が設立された。

会長に就任した江崎さんは、「この協議会の強みは、観光関係者や行政のほか、漁協、農協、森林組合など一次産業がすべて入ってくれたこと。この強みを生かしたマーケティング戦略を立てるためにも、ガイドがもっと一次産業のことを学び理解を深める必要がある」と主張する。江崎さん自身、三重大学大学院生物資源学研究所の博士課程で漁業について学んでおり、知識を身につけることに加え、漁業関係者から厚い信頼を集めている。それがガイドとしての付加価値となり、ツアー客の満足度を向上させている。



「伊勢志摩のエコツーリズムは一次産業の協力なしでは成り立たない」と江崎さんはいう

現在、伊勢志摩という広域で活動を進めるにあたり、江崎さんは行政との関わり方を模索しているという。「産業界は行政区画の境界線など関係なく活動しているが、行政はどうしても自身の市町の活性化を重視しがち。せっきく広域で連携していこうと協議会を立ち上げたので、エリア全体の魅力を高められるよう、皆で同じ方向を向いて頑張っていきたい」と強く願っている。

観光が一次産業に貢献できることを願って

海島遊民くらはのガイドツアーからはじまり、地域への貢献、他地域への支援、そしてフィールドを伊勢志摩全体へと拡大して活躍する江崎さん。その行動力の源について、「漁師をはじめ、地域の自然を守りつつ産業を支えてきた人たちがいるから。彼らの一生懸命な姿が、自分にやりがいを与えてくれている」と答える。「今は観光が一次産業の資源を活用している部分が多いが、これからは観光が一次産業の役に立つよう成長していくことを目指していきたい」とビジョンを語る。観光で人々の幸せを成す“成幸”の実現をミッションに掲げ、江崎さんは邁進しつづける。

文：総務部 櫻井 景子
取材協力：(有)オズ 代表取締役
江崎 貴久 氏



“海島遊民くらぶ”

地元に触れる
ディープな旅を!

おすすめツアーを体験しに行こう!!

1 無人島カヤックツアー

鳥羽湾に浮かぶ3つの無人島(三ツ島)を目指してカヤックで出発! ガイドが案内するので、初めての方でも、スポーツが得意でない方でも気軽にカヤックや海を楽しめます。手ぶらで参加OK! 無人島では、ゆったりと海を眺めながら休憩したり、アクティブに泳いだりして過ごせます。

- 期間** 2月~11月(8/13~15を除く)
- 時間** 9:30~11:00、11:30~13:00、13:30~15:00、15:30~17:00
- 金額** (税込):5,500円/1人
(補助シート利用のお子様は3,500円/1人)
- 催行人数** 2~12名



2 お魚ざんまい♪ 漁師さんと船釣りツアー

漁師さんと一緒に船釣り体験! 本格的な釣り気分を味わうことができます。初めての方・お子様でも漁師さんがいるから安心! オプションで、釣った魚を調理してもらい食べることができます。ご希望の方は予約時にお知らせください。

- 期間** 4月末~12月上旬
(8/13~15、水曜日を除く)
- 時間** 希望の開始時間をお知らせください
- 金額** (税込):11,000円/1人
- 催行人数** 2~15名



3 「答志島トロさわら」! 炙って焼いて、タタキ造り体験

伊勢湾でもりもり肥えた「答志島トロさわら」を炙ってタタキづくりに挑戦! 魚偏に春と書く「鱧(さわら)」。一般的には春が旬の魚ですが、「答志島トロさわら」は秋がもっとも脂がのって美味しいです。ツアーで用意するランチとともにお召し上がりください。

- 期間** 10月~1月初旬
(12/30~1/3を除く)
- 時間** 11:00~12:30
- 金額** (税込):5,500円/1人
- 催行人数** 2~40名



4 船で行く! 漁師町の島ランチ

鳥羽の答志島は、漁師の島。季節によってさまざまな魚介が水揚げされます。挨拶を交わした島の人が名物料理をご馳走してくれることも! ランチには、答志島の家庭料理を食べさせてくれる食堂で、旬の魚介が楽しめます。食堂のお母さんとの会話も絶品です!

- 期間** 通年(8/13~15、12/30~1/3を除く)
- 時間** 10:30~14:00、11:30~15:00
- 金額** (税込):大人6,500円/1人
お子様3500円/1人
(ランチ付き、別途定期船代が必要です)
- 催行人数** 2~19名



ほかにも魅力的な
ツアーメニューが満載!

ツアーメニューの詳細・予約については、海島遊民くらぶのホームページ(<http://oz-group.jp/>)をご覧ください